


 最新レポート

戦火の一年 —南スーダンにおける内戦と和平の行方—

村橋 勲

1. はじめに：「希望」から「絶望」へ

2014年はアフリカの新国家、南スーダンにとって暗い年となった。南部スーダンは、22年に及ぶ第二次内戦後、2011年7月9日に、南スーダン共和国としてスーダンから分離独立を果たした¹。現在、南スーダンは、アフリカ54番目の独立国、193番目の国連加盟国として世界でもっとも若い国家である。独立当初、南スーダンは、「アフリカ最長」と呼ばれた内戦の末、スーダンから独立を勝ち取ったという喜びにあふれていた。また、農業に適した広大な土地と豊富な石油を産出することから、「希望の国」として国際社会の注目を集めた。

しかし、2013年12月中旬に首都ジュバで勃発した大統領警護隊の兵士間での銃撃戦は、サルバ・キール（Salva Kiir）大統領を支持する政府軍とリエック・マチャル（Riek Machar）前副大統領を支持する反政府軍との戦闘に発展した。そして、戦闘勃発から一年が経過した今も内戦が続いている。両軍は、主に北東部の上ナイル地方（ジョングレイ州、ユニティ州、上ナイル州）で武力衝突を繰り返している（図1参照）。

一方、南スーダン政府とマチャル派の間での停戦／和平交渉は、政府間開発機構（Inter-Governmental Authority on Development : IGAD）²の仲介の下、エチオピアの首都アジスアベバで進められている。両派は、すでに3度、停戦合意したが、いずれも数日後に合意は破られ、戦闘が再開された。また、和平交渉では、次期総選挙までの間、暫定国民統一政府（Transitional Government of National Unity : TGONU）を設置することで合意に至ったが、暫定政府内の権力分有をめぐる話し合いは平行線をたどっている。

戦闘が勃発した時、私は、東エクアトリア州に居住する民族集団ロピットの社会制度に関するフィールド調査に向かうため、州都トリット³に滞在していた。12月16日の早朝、ジュバにいる友人から電話があり、前日の夜から始まった銃声が朝になっても断続的に聞こえており、市内で戦闘が行われているようだ、という知らせを受けた。その日、トリットは平穏だったが、午後になると政府軍の車両が頻繁に往来するようになった。夕方、夜間外出禁止令が発令され、交通機関は停止した。宿泊先のホテルは、銃を持った兵士たちでいっぱいになり、彼らは、夕方7時になると国営テレビのニュースに釘付けになっていた。彼らとっしょにニュースを見ていると、軍服に身を包んだサルバ・キール大統領の記者会見が映し出された。大統領は、その会見で「マチャル前副大統領とその一派によるクーデターは未遂に終わり、ジュバの治

1 スーダン共和国は、イギリスとエジプトによる共同統治を経て、1956年に独立した。スーダンは、第一次内戦（1955～1972年）と第二次内戦（1983～2005年）の2度にわたって内戦を経験した。独立後、内戦がなかったのは1972～1983年までの10年間だけである。

2 IGADは、北東アフリカ各国から構成され、加盟国はケニア、スーダン、ウガンダ、エチオピア、エリトリア、ジブチ、ソマリアの7ヶ国。

3 トリットは首都ジュバから約120キロ南東に位置する。



図1 南スーダンの州区分と主要都市*

* UNOCHA に記載されている地図から筆者作成。主要都市に関しては、本文中で言及した都市のみ地図上に記載した。

安は政府軍がコントロールしている」と話した。しかし、翌日もジュバ市内では断続的に銃声が響き、結局、治安が落ち着いたのは18日であった。その後、閉鎖されていたジュバ空港は再開され、南スーダンに滞在した外国人の退避が始まった。しかし、トリットージュバ間の交通機関は運行を再開せず、トリットでの足止めを余儀なくされた。陸路でジュバに移動できたのは、戦闘発生から一週間が経ってからである。ジュバに移動した翌日、民間機で南スーダンからウガンダへと退避した⁴。

本稿は、戦闘勃発から一年が経った南スーダンでの紛争を「内戦」と捉え、紛争の背景である与党内の政治的対立（第2章）、首都での戦闘の勃発と地方への紛争拡大の経緯（第3章および第4章）、政府軍と反政府軍の停戦／和平交渉の動向（第5章）に関して要約したものである。なお、治安上の問題で、南スーダン国内でのフィールドワークはできないため、本稿は、報道や国連、国際NGOの報告などを基に執筆した。

2. 高まる緊張：与党内の政治的対立

まず、南スーダンの民族集団と経済状況について紹介する。南スーダンは60以上の民族集団からなる多民族国家である。人口最大のディンカ（40%）とそれに次ぐヌエル（20%）の他、ザンデ、トボサ、シルックなどの民族集団から構成されている⁵。現在、敵対関係にある政府側と反政府側それぞれの代表である、キール大統領はディンカ人で、マチャル前副大統領はヌエル人である。ディンカは、バハル・エル・ガザール地方と上ナイル地方の一部、ヌエルは上ナイル地方を故地とする。どちらの民族も、伝統的には牧畜に依存した生業を営んでいた。一方、首都ジュバがあるエクアトリア地方は、ザンデ、バリ、ロトゥウ

4 ジュバ空港は19日に再開され、南スーダン国内に滞在していた外国人は各国大使館が手配したチャーター機か民間機でケニアやウガンダなどの隣国に退避した。

5 Small Arms Survey, “The South Sudan Defence Forces in the Wake of the Juba Declaration”, Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, Working Paper 1, Geneva. 参照。

ホ、トポサなど 20 以上の少数民族が居住している⁶。南スーダンには、国家収入の 95%以上を石油に依存しており、それ以外に目立った産業はない。油田はユニティ州と上ナイル州に分布し、独立直後（2011 年）には日産 34 万バレルを生産していた⁷。

本章では、CPA 締結後のスーダン国内での政治的動静とスーダン人民解放運動／スーダン人民解放軍（Sudan People's Liberation Movement/ Sudan People's Liberation Army : SPLM/SPLA）⁸ 内部での政治的対立について紹介する。なお、SPLM/SPLA は、第二次内戦（1983 ～ 2005 年）において、南部スーダンを代表して内戦を主導してきた反政府ゲリラであり、南スーダン独立後、SPLM は与党、SPLA は国軍となった。

スーダンでは、2005 年 1 月、SPLM とスーダン政府との間で南北包括和平合意（Comprehensive Peace Agreement : CPA）が締結され、第二次内戦が終結した。南部には自治権を付与された暫定自治政府が設立され、6 年間の移行期間の後、スーダンからの分離独立の是非を問う住民投票が行われることになった。2005 年 7 月初め、SPLM 議長兼 SPLA 最高司令官として内戦を主導してきたディンカ人のジョン・ガラン（John Garang）がスーダン第一副大統領に就任した。しかし、ガランは、就任からわずか 3 週間後、ヘリコプターの墜落事故によって急死する⁹。そして、8 月、SPLA 参謀長（序列第 2 位）であったサルバ・キールが、ガランの後任としてスーダン第一副大統領に就任し、9 月に南部スーダン自治政府が樹立されると、彼はその大統領を兼務した。キールは、2010 年 4 月の総選挙で大統領に再選され、副大統領にはリエック・マチャルが就任した。その後、2011 年 1 月に住民投票が行われ、圧倒的多数の支持を得て、南部スーダンは念願の独立を達成することになる。

しかし、次第にキール大統領を独裁者と批判する声が上がりはじめ。2013 年 3 月に開催された SPLM 政治局会議で、マチャル副大統領は、汚職、トライバリズム（部族主義）、治安、経済、外交関係、党のビジョンに関してキール大統領は失敗していると述べ、2015 年に予定された次期大統領選へ出馬する意思を表明した¹⁰。また、この時、マチャルのほかに、パガン・アムム（Pagan Amum）SPLM 書記長と故ジョン・ガランの未亡人レベッカ・ニャンデン（Rebecca Nyandeng）も立候補の意思を示した。

次期大統領選を見据えて SPLM 内の権力争いが激しくなるなか、7 月 23 日、キール大統領は、汚職追放を理由にマチャル副大統領をはじめ全ての閣僚を解任した。その 1 週間後に、新内閣の人事が発表されたが、閣僚の顔ぶれは大きく変わり、SPLM 以外の政党出身者や、かつてスーダンの政権与党 NCP（国民会議党）に属していた政治家が選出された。また、マチャルに代わる副大統領には、ジェームズ・ワニ（James Wani）が就任した。この時、国内で目立った暴動は起こらなかったものの、解任された閣僚たちによる政権批判はさらに強まっていった。

一方、第二次内戦終結後も、キール政権に対する反乱は地方で続いていた。とくに 2010 年の総選挙後、選挙期間中に頻発した SPLA 兵士による暴行や任意逮捕に反発し、選挙で敗れた候補者が反政府ゲリラを組織して武装活動を開始するようになった。上ナイル地方だけで、2011 年には 7 つの反政府ゲリラが存在

6 バハル・エル・ガザール地方は、西バハル・エル・ガザール州、北バハル・エル・ガザール州、レイクス州、ワラップ州の 4 州、上ナイル地方は、ユニティ州・上ナイル州・ジョングレイ州の 3 州、エクアトリア地方は、中央エクアトリア、東エクアトリア、西エクアトリア州の 3 州からなる（図 1 参照）。

7 U.S. Energy Information Administration “Country Analysis Brief: Sudan and South Sudan”, September 3, 2014, (<http://www.eia.gov/countries/analysisbriefs/Sudan/sudan.pdf>) 参照。

8 SPLM/SPLA は、政治部門の SPLM と軍事部門の SPLA からなるが、軍事部門が突出している。

9 ジョン・ガランはウガンダのムセベニ大統領との会談後、ムセベニが準備した大統領専用ヘリコプターでスーダンに戻る途中、ヘリコプターが墜落し、死亡した。事故の原因に関して、スーダン政府は事故調査委員会の報告書を提出しておらず、「陰謀説」もささやかれてきた。栗本英世 2007 「ジョン・ガランにおける『個人支配』の研究」、佐藤章（編）『統治者と国家—アフリカの個人支配再考—』アジア経済研究所 165-222 . 参照

10 Small Arms Survey, “Timeline of Recent Intra-Southern Conflict” Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, Geneva: June 2014. 参照。

していたが¹¹、その後、いくつかの反政府ゲリラは政府と停戦し、SPLA に統合された。ジョングレイ州では、ムルレ人のデイビット・ヤウヤウ (David Yau Yau) が、SPLM の汚職を批判し、反乱を起こした。ヤウヤウは2011年に一度、政府と和解したが、2012年から南スーダン民主運動/南スーダン民主軍コブラ派 (South Sudan Democratic Movement/ South Sudan Democratic Army-Cobra Faction : SSDM/A-CF) を率いて、政府軍と激しく交戦していた¹²。

このように、南部スーダンでは、第二次内戦が終結した後も政治的に不安定な状況が続いており、上ナイル地方では内戦を主導してきた SPLM/SPLA の支配に対する不満から、新たな対立と分裂が生まれていた。

3. 戦闘の勃発：「クーデター未遂事件」の真相

2013年に入り、与党 SPLM 内の政治的対立は表面化していったが、大規模な戦闘が起きる徴候はなかった。しかし、12月15日以降、情勢は一気に悪化した。本章では、12月に入ってから、SPLM 内で起こった動きと戦闘勃発までの経緯を示し、内戦の発端となった「クーデター未遂事件」の詳細を明らかにする。

12月6日、マチャルをはじめとする前閣僚メンバーたちは記者会見を開いた¹³。その会見で、前閣僚メンバーたちは、キール大統領の独裁傾向を批判し、市民集会の開催を要求した。これに対し、ワニ副大統領は、マチャルとその一派は不安定と無秩序を引き起こそうとしていると非難し¹⁴、3月から延期されたままであった国民解放評議会 (National Liberation Council : NLC)¹⁵ を市民集会の代わりに開催することを発表した。

14日に始まった NLC の冒頭、キール大統領は、「現在、大統領を批判する人々は、1991年にクーデターを起こして SPLM/SPLA を離れた人々である」¹⁶ と述べた後、第二次内戦中に起きた SPLA の分裂が民族間の対立を引き起こし、いかに悲惨な結果をもたらしたかを強調した¹⁷。このスピーチに対して、マチャルをはじめとした一部の SPLM の政治家が反発し、評議会を途中退席した¹⁸。翌15日、マチャルを含め SPLM の古参メンバーの数人は評議会をボイコットしたが、審議は続行された。

戦闘勃発時の状況に関して、さまざまな情報が錯綜したが、以下では、HRW (ヒューマン・ライツ・ウォッチ) の報告など複数の情報源を基に詳述する¹⁹。

11 Small Arms Survey, "Fighting for spoils: Armed insurgencies in Greater Upper Nile", Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, Issue Brief 18, Geneva: November 2011. 参照。

12 Small Arms Survey, "David Yau Yau's Rebellion", Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, June, 2013. 参照。

13 Sudan Tribune, December 6, 2013. "Senior SPLM colleagues give Kiir ultimatum over party crisis" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49087>) 参照。

14 Sudan Tribune, December 8, 2013. "SPLM abruptly postpones NLC meeting" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49113>) 参照。

15 国民解放評議会 (NLC) は SPLM 党大会にあたるが、2013年3月以降、開催されていない。これに対して、党内の意見の差異を解消するため開催するべきだという声が上がっていた。

16 1991年8月、SPLA 司令官のリエック・マチャル、ラム・アコル (Lam Akol)、ゴードン・コン (Gordon Kong) は、最高司令官ジョン・ガランを独裁者として非難した。彼らは、SPLA ナシル派 (SPLA-Nasir) を結成し、ガランに反旗を翻した。一方、ガランは SPLA トリット派 (SPLA-Torit) と名乗る。その後、前者は SPLA 統一派、後者は SPLA 主流派と名前を変え、互いに武力衝突を繰り返した。

17 キール大統領は、1991年11月に起きたボー大虐殺に言及した。この事件では、マチャルはヌエルの民兵組織、白軍とともに約2000人のディンカ人を殺害したと非難されている。

18 Sudan Tribune, December 14, 2013. "SPLM leaders pull out of NLC meeting over "lack of dialogue spirit" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49181>) 参照。

19 Human Rights Watch, "South Sudan's New War: Abuses by Government and Opposition Forces", August 2014, p.22, Sudan Tribune, December 16, 2013. "South Sudan's presidential guards clash in Juba" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49192>), Radio Tamazuj, December 18, 2013. "Peter Adwok : 'President's order to disarm Nuer guards caused mutiny and chaos in South Sudan'" (<https://radiotamazuj.org/en/article/peter-adwok-president%E2%80%99s-order-disarm-nuer-guards-caused-mutiny-and-chaos-south-sudan>), WEBRONZA. 2013年12月30日「南スーダン紛争、作り上げられた『民族対立』—大阪大学・栗本英世教授に聞く」(<http://webronza.asahi.com/politics/articles/2013122700004.html>)。

栗本英世「深刻な南スーダン紛争 民族間で殺戮、遠く国民和解」エコノミスト 92(7), 2014.2. 44-45. 参照。

15日夕方、NLC閉会後、キール大統領は大統領警護隊に武装解除を命じる。しかし、数時間後、ディンカ人兵士にだけ再武装が認められたため、ヌエル人兵士が反発した。そして、夜10時過ぎ、SPLA本部がある施設内で、大統領警護隊に属するディンカ人兵士とヌエル人兵士の間で銃撃戦が発生した。翌16日早朝には、SPLAの武器庫でも双方の兵士の間で戦闘が始まり、市内の別の兵舎でも銃撃戦が勃発した。昼過ぎ、キール派の兵士たちはマチャル派の兵士たちを兵舎から追い出した後、ジュバ市内に繰り出し、各家を回りながら、ヌエル人を標的にした殺人、掠奪、任意逮捕を行った。その頃、キール大統領は、迷彩色の戦闘服に身を包み、国営テレビを通じて記者会見を行った。私がトリットで見たのは、この記者会見である。会見のなかで、キール大統領は、銃撃戦をリエック・マチャルとその一派によるクーデターと規定し、クーデターは未遂に終わったと発表した²⁰。

キール派の兵士たちはヌエル人兵士だけではなく、一般市民（主に男性）も殺害の対象にした。ニューヨークに本部を置く人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチは、ジュバ市内の各地でヌエル人を標的にした殺人事件が60件以上あったと報告している。16日夜には、200～400人のヌエル人市民が居住地区の警察署に集められ、一斉に銃殺されるという集団殺戮も発生した²¹。

17日、政府はクーデターの容疑で9人の政治家を逮捕し、さらに4人を捜索中と発表した。数日後、パガン・アムムと前高等教育大臣ピーター・アドウォク（Peter Adwok）が拘束され、最終的に逮捕者は11人に上った²²。彼らの多くは、12月6日の記者会見で大統領を独裁者として批判した前閣僚メンバーである。

政府軍によるヌエル人を標的にした暴行は18日まで続き、市内に2か所ある国連施設には約2万人の避難民が押し寄せた。また、同日、大量の遺体を回収したトラックが市内を走り回っているのが目撃されている。当初、南スーダン政府は、死者約500人（死者のほとんどは兵士）、負傷者約700人と公表した²³が、一般市民の犠牲については触れなかった。市民を含めた実際の死者数はさらに多いと考えられるが、正確な数は不明なままである²⁴。

クーデターの主犯とされたマチャルは15日夜にジュバから脱出した。17日、政府軍はマチャルの自宅を戦車で破壊したものの彼を逮捕することはできなかった。18日、戦闘後初めて電話取材に応じたマチャルは、クーデターを否定したうえで、「政府軍がヌエル人を標的に殺戮を行い、民族対立を煽動している」と、キール大統領を厳しく非難した²⁵。その後、マチャル前副大統領は、自分を支持する政治家やSPLAを離反したヌエル人将校たちとともにSPLM/A-in-Opposition（以下SPLM/A-IO）を結成し、キール政権を打倒することを目標として本格的に政府軍との戦闘を開始した²⁶。それに対して、キール大統領を支持する政府側はSPLM/A-Jubaと呼ばれるようになった。

20 国営テレビで放送された記者会見はYou Tubeで閲覧できる。(https://www.youtube.com/watch?v=boLU2005JDI) 参照。

21 Human Rights Watch, “South Sudan’s New War: Abuses by Government and Opposition Forces”, August 2014, pp.21–28. 参照。

22 Sudan Tribune, December 18, 2014. “Former SPLM secretary-general Amum arrested in Juba” (http://www.sudantribune.com/spip.php?article49239) 参照。逮捕者は、Deng Alor, Gier Chuang, Kosti Manibe, Cirino Hiteng, Madut Bia, Peter Adwok, John Luk, Majak D’Agoot, Oyai Deng, Ezekiel Lol, Pag’an Amumの11人。捜索されていた2人、Tabang Deng GaiとAlfred Ladu Goreは逮捕を逃れ、マチャル派の反政府軍に加わった。

23 Voice of America, December 19, 2013. “Crisis in South Sudan Deepens” (http://www.voanews.com/content/south-sudan-army-says-control-of-northern-town-lost/1813455.html) 参照。

24 L’Agence France-Press, November 15, 2014. “50,000 and not counting: South Sudan’s war dead” (http://www.dailymail.co.uk/wires/afp/article-2836137/50-000-not-counting-South-Sudans-war-dead.html) 参照。ある援助関係者は、ジュバの戦闘だけで死者は5000人以上ではないかと指摘している。

25 BBC News Africa, December 18, 2013. “South Sudan opposition head Riek Machar denies coup bid” (http://www.bbc.com/news/world-africa-25427619) 参照。

26 本稿で、反政府軍とはSPLA-IOを指す。

Small Arms Survey, “The SPLM-in-Opposition”, Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, Geneva: 2 May 2014. (http://www.smallarmssurveysudan.org/facts-figures/south-sudan/conflict-of-2013-14/splm-in-opposition.pdf) 参照。

一方、クーデター容疑で逮捕された 11 人の政治家のうち、パガン・アムムら 4 人²⁷を除く 7 人は 2014 年 1 月 29 日に解放された。アムムたち 4 人は国家反逆罪に問われ、3 月 11 日からジュバで裁判が行われたが、4 月 25 日に不起訴となり、彼らは保釈された。その後、アムムたちは、ケニアやエチオピアに逃れ、1 月に解放された 7 人のメンバーとともに、SPLM-Former Political Detainees (SPLM-FPD) を結成した。SPLM-FPD は、政府側 (SPLM/A-Juba) や反政府側 (SPLM/A-IO) と異なる第 3 勢力として停戦/和平交渉に参加していくことになる。

はたして、内戦の発端とされる「クーデター未遂事件」は存在したのだろうか。これに関して、政府側とマチャル側との見解は真っ向から対立したままであった。大統領側は、マチャルとその一派によるクーデターがあったと強硬に主張し、一方、マチャル側は、クーデターは政府によるでっちあげであると反論した。政府がマチャル派の反論に耳を貸すことはなかったが、後述するように、2014 年 10 月にタンザニア、アルーシャで行われた SPLM の内部対話の後、政府は紛争の根本的原因について議論することを認めた。

4. 紛争の拡大：政府軍と反政府軍の攻防

12 月 18 日以降、ジュバの治安は一旦、回復したが、戦火は瞬く間に地方に拡大した。とくにヌエルの故地である上ナイル地方で戦闘が激化した。ジョングレイ州、ユニティ州、上ナイル州の州都では SPLA の兵士が次々と離反し、油田地帯を襲撃し、州都を制圧した²⁸。その後、キール派の政府軍とマチャル派の反政府軍の間で激しい攻防が繰り返された。これまでに両軍の戦闘は 7 州で発生したが、本章では戦闘の激しかったジョングレイ州、ユニティ州、上ナイル州の状況とエチオピアで調印された 2 度の停戦合意について説明する。

まず、反乱の火の手はジョングレイ州から始まった。12 月 17 日～18 日、SPLA 第 8 師団長ピーター・ガデット (Peter Gadet)²⁹ 少将が州都ボーを制圧し、マチャルへの支持を表明した³⁰。12 月 19 日、同州アコボでは、ジュバで起きたヌエル人市民殺害の報復と思われる事件も発生した。約 2000 人の武装したヌエル人が国連 PKO の施設を襲撃し、応戦した国連軍のインド兵士 2 人と施設内に逃げ込んだディンカ人 30 人を殺害した³¹。その後、ボーでは、政府軍と反政府軍との攻防が繰り返され、これまでに 4 度、支配勢力が入れ替わっている。12 月 24 日、政府軍は反政府軍をボーから撃退した³²。この奪還作戦では、ウガンダ国軍 (Uganda People's Defence Force: UPDF) が南スーダン政府軍を軍事支援した。ジュバでの銃撃戦直後、ウガンダ政府は、自国民を守るために国軍を派遣したと公表したが、ボー奪還後の 12 月 30 日、南スーダンの治安回復のため、南スーダン政府を軍事的に支援することを公式に表明した³³。翌 31 日には、反政府軍がボーを再制圧し。反政府軍は 2013 年 12 月 31 日から 2014 年 1 月 18 日までボーを支配下に置いたが、1 月 19 日、

27 Pagam Amum の他は、Oyai Deng、Ezekiel Lol、Majak D'Agoot の 3 人。

28 Sudan Tribune, December 23, 2013. "Ex-VP Machar says forces will divert oil revenues from Juba" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49298>) 参照。

29 ピーター・ガデットは、ヌエル人将校。1991 年の SPLA 分裂以降、マチャルの下で SSDF、さらに SSLA に参加して SPLA と戦った。南北内戦終結後も反武装ゲリラを組織して SPLA と戦っていたが、2011 年に政府軍と停戦し、SPLA 司令官となった。Small Arms Survey, "Fighting for Spoils: Armed Insurgency in Greater Upper Nile", Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, November 2011. 参照。

30 Sudan Tribune, December 18, 2013. "S. Sudan army says General Peter Gadet defected from ranks" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49234>) 参照。

31 Sudan Tribune, December 21, 2013. "Attack on UN Akobo base killed 30 civilians, says foreign minister" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49276>) 参照。

32 Sudan Tribune, December 24, 2013. "South Sudan army claims to have retaken Bor from rebels" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49318>) 参照。

33 Sudan Tribune, December 30, 2013. "Accept ceasefire or face defeat, Ugandan leader tells Machar" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49385>) 参照。

南スーダンとウガンダの連合軍はボーを奪還した³⁴。この戦闘で、反政府軍は、撤退時に、教会での市民の殺害、病床での患者の殺害、女性へのレイプなどの残虐行為を行ったと報告されている³⁵。

また、2014年4月には、政府寄りの武装市民がボーの国連施設を襲撃し、少なくとも30人の避難民（多くがヌエル人）が殺害される事件が発生した³⁶。これは後述する反政府軍によるユニティ州の州都ベンティウ奪還直後に起きており、政府側による報復と考えられる。

州都ボーの奪還作戦では、南スーダン政府軍と連合軍を結成しているウガンダ国軍が大きな役割を果たしている。一方、マチャルを支持する反政府軍側にはヌエルの白軍（White Army）が協力している。白軍は、マチャルの指揮下にはないものの、ガデット率いる反政府軍が行っている一部の軍事作戦に参加したとみられている³⁷。

国内の主要な油田があるユニティ州でも両軍が衝突した。12月21日、ユニティ州では、SPLA 第4師団長ジェームズ・コン（James Koang）少将がSPLAを離反し、州都ベンティウを制圧した。彼もマチャルへの支持を表明し、州知事を解任し暫定統治を始めた³⁸。反政府軍が油田地帯を制圧し、石油施設で働いていた従業員が退避したため、石油の生産は停止した³⁹。その後、政府はジョングレイ州とユニティ州に非常事態宣言を発令した。

2014年1月初旬から政府軍は反撃を開始し、1月10日にベンティウを奪還した⁴⁰。この際、ダルフルを拠点に活動するスーダンの反政府武装組織、正義と平等運動（Justice and Equality Movement : JEM）⁴¹が南スーダン政府側に同盟軍として参加したとみられている⁴²。

1月の停戦合意後もベンティウでは両軍の攻防が続いた。4月14～15日、反政府軍がベンティウを急襲し、制圧した⁴³。その時、市内のモスクで、反政府軍兵士が数百人のダルフル人を集団虐殺する事件が発生した⁴⁴。5月4日、政府軍が再びベンティウを再制圧した。その後も州内では反政府軍と政府軍との戦闘が繰り返されたが、ベンティウは依然として政府軍の支配下にある。

反乱はもうひとつの油田地帯である上ナイル州でも勃発した。12月25日、SPLA 第7師団から離反した兵士たちが州都マラカルの一部を制圧した⁴⁵。この時、政府軍は数日後にマラカルを奪還した⁴⁶。マラカルで

34 Sudan Tribune, January 18, 2014. “South Sudan army says Bor recaptured from rebel forces” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49629>) 参照。

35 Human Rights Watch “South Sudan’s New War: Abuses by Government and Opposition Forces”, August 2014, pp.52–53. 参照。

36 Sudan Tribune, April 17, 2014. “30 people killed following clashes at UN base in Jonglei: reports” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50689>) 参照。

37 白軍は主にロウ・ヌエル（Lou Nuer）出身の武装した若者たちが組織する民兵組織。Young, John. 2007. “The White Army: An Introduction and Overview”, Small Arms Survey HSBA Working Paper No.5, June を参照。白軍は、1991年の SPLM/SPLA 分裂時に起きたボー大虐殺でマチャルに協力し、その名前が知られるようになった。

38 Sudan Tribune, December 21, 2013. “Unity state’s 4th division commander defects, assumes governorship” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49274>) 参照。

39 Sudan Tribune, December 26, 2013. “Dissident general says Unity state oil production has stopped” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49343>) 参照。

40 Sudan Tribune, January 10, 2014. “S. Sudan army says recaptured oil-rich town from rebels” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49512>) 参照。

41 Small Arms Survey “Justice and Equality Movement (JEM) (AKA JEM-Jibril)”, Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, August 2014: Geneva. 参照。

42 Sudan Tribune, January 11, 2014. “JEM dismiss claims by S. Sudan rebels they took part in Bentiu recapture” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49525>) 参照。

43 Sudan Tribune, April 15, 2014. “Rebels say they have recaptured Unity state’s Bentiu from South Sudan army” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50658>) 参照。

44 Human Rights Watch, “South Sudan’s New War: Abuses by Government and Opposition Forces”, August 2014, pp 65–67. 参照。

45 Radio Tamazuj, December 25, 2013. “South Sudan: Fighting continues inside Malakal and near Bor” (<https://radiotamazuj.org/en/article/south-sudan-fighting-continues-inside-malakal-and-near-bor>) 参照。

46 Sudan Tribune, December 24, 2013. “Machar’s forces capture Upper Nile state capital, Malakal” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49320>) Sudan Tribune, December 29, 2013. “South Sudan army says Malakal under government control” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49371>) 参照。

は6度、支配勢力が入れ替わっている。反政府軍は、1月14日にマラカルを再制圧した後、1月20日まで支配する⁴⁷。その後、1月20日から2月18日までは政府軍⁴⁸、2月18日から3月19日までは反政府軍⁴⁹、3月19日以降は政府軍が支配している。マラカルでも、両軍が市民への暴行を行っており、教会で市民の集団殺戮が発生したと報告されている⁵⁰。

上ナイル州の攻防では、2011年に反政府武装ゲリラとして活動し、その後SPLAに統合されたシルック人の武装組織が政府軍に協力していると言われている⁵¹。一方、反政府軍はスーダン領内で軍事訓練をしており、スーダンが反政府軍に武器弾薬を提供していると考えられている⁵²。

両軍の戦闘が一進一退の攻防を続けるなか、他の地方でも政府軍からの離反が相次いだ。1月中旬には、中央および西エクアトリア州でSPLAの一部の部隊が離反し、反政府軍について⁵³。2月、政府はSPLA兵士の60～70%がSPLAを離反し、彼らの多くが反政府軍側についてと認めた⁵⁴。この後も、SPLAからの離反は続き、4月後半には、西バハル・エル・ガザール州で一部の部隊が政府軍から離反した⁵⁵。

次に、政府側、反政府側双方の停戦交渉について述べる。両勢力はIGADの仲介の下、2014年1月4日から、エチオピアの首都アジスアベバで協議を開始した。交渉では、南スーダン政府はマチャル派(SPLM-IO)に対し無条件での停戦合意を求めたが、マチャル派は政府に拘束されているクーデター容疑者全員の釈放を要求し、双方の代表が協議をボイコットした。1月中旬、政府軍が主要都市であるボー、ベンティウ、マラカルを奪還すると実質的に協議が始まり、1月23日、両勢力の間で停戦合意が調印された⁵⁶。しかし、合意から数日後には戦闘が再開され、政府軍はマチャルの故郷の町、ユニティ州のレールを攻撃した。この戦闘で、病院は粉々に破壊され、何千人もの住民が避難した⁵⁷。

4. 解消されない対立：進展しない停戦／和平交渉

本章では、2014年5月9日の停戦合意および和平交渉の進展と争点、そして停戦合意以後も再発する戦闘について概要を述べる⁵⁸。

5月初旬、アメリカのジョン・ケリー国務長官がジュバに入り、両派の代表に即時停戦を呼びかけた。5月6日、アメリカ政府は大統領警護隊のマリアル・チャヌオン(Marial Chanuon)少将と反政府軍のピー

47 Sudan Tribune, January 20, 2014. "South Sudan army retake Malakal town" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49653>) 参照。

48 Sudan Tribune, February 21, 2014. "S. Sudan admits to tactical withdrawal in Malakal" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50041>) 参照。

49 Sudan Tribune, March 19, 2014. "South Sudan army recaptures Upper Nile capital from rebels" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50348>) 参照。

50 Human Rights Watch, "South Sudan's New War: Abuses by Government and Opposition Forces", August 2014, pp 69–74. 参照。

51 Johnson Olony は、2011年から上ナイル州で反政府ゲリラ活動を開始。2012年2月、反政府ゲリラSSDM/Aのリーダーとなったが、2013年6月、SPLAと和解した。Small Arms Survey Sudan "Fighting for Spoils: Armed insurgencies in Greater Upper Nile", Human Security Baseline Assessment (HSBA) for Sudan and South Sudan, Sudan issue brief 18, November 2011, Geneva. 参照。

52 Pachodo.org, October 18, 2014. "Sudan considers arming, training South Sudan rebels, leaked document says" (<http://pachodo.org/latest-news-articles/news-from-various-sources/9484-sudan-considers-arming-training-south-sudan-rebels-leaked-document-says>) 参照。

53 Yei, Morobo, Mundri でSPLA兵士の離反があった。Radio Tamazuj, January 5, 2014. "SPLA confirms defections in Equatoria, heavy fighting in Jonglei" (<https://radiotamazuj.org/en/article/spla-confirms-defections-equatoria-heavy-fighting-jonglei>) 参照。

54 Sudan Tribune, February 17, 2014. "S. Sudan admits mass defection of army troops to Machar rebels" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50004>) 参照。

55 Mapel と Wau で離反した部隊が政府軍と交戦。Sudan Tribune, April 25, 2014. "Heavy fighting erupts in W. Bahr el Ghazal's Mapel town" (<http://sudantribune.com/spip.php?article50771>) 参照。

56 Sudan Tribune, January 23, 2014. "South Sudan government, rebels sign ceasefire agreement" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article49693>) 参照。

57 Sudan Tribune, February 1, 2014. "Leer residents forced to flee alleged army offensive in Unity state" (<http://sudantribune.com/spip.php?article49807>) 参照。

58 停戦／和平交渉の進展については、栗本 2014 "JPF 報告：南スーダン情勢 2014年8月および2014年9月1日～11月16日" 参照。

ター・ガデット (Peter Gadet) 将軍に対して移動禁止と資産凍結を課すという制裁措置を発表した⁵⁹。そして、5月9日、IGADの仲介の下、キール大統領とマチャル前副大統領は、アジスアベバで改めて停戦協定に調印した⁶⁰。しかし、数日後にはこの停戦合意も破られ、戦闘が再開された。さらに、同日、南スーダン政府は、デイビッド・ヤウヤウ率いる反政府武装ゲリラ、南スーダン民主運動/軍コブラ派 (SSDM/A-CF) とともに停戦合意し、ジョングレイ州東部では4年に及ぶ戦闘が終結した⁶¹。

5月の停戦合意では、政府側 (SPLM-Juba)、反政府側 (SPLM-IO) 双方が次期総選挙までの移行期間に暫定国民統一政府を設立することで合意した。6月10日、キール大統領とマチャル前副大統領は、2カ月以内に暫定政府を樹立すると発表した。

7月に入ると、南スーダン国内で連邦制をめぐる論議が活発になった。連邦制を採用すると、州政府の権限が強化され、南スーダン政府が介入できない独自の行政権を持つことが認められる。7月初旬、中央エクアトリア州の州知事クレメント・ワニ (Clement Wani) が、連邦制を支持し、それに向けた議論を続けると発言したが、政府は連邦制についての議論を禁止し、キール大統領とワニ州知事との政治的緊張が高まった⁶²。4日、政府軍が、州知事の故郷の町テレケカに派遣され、事態は緊迫したが戦闘は発生しなかった⁶³。連邦制導入に関しては、10月、キール大統領が連邦制を認める発言をしており、今後、議論が進む可能性がある⁶⁴。

さて、アジスアベバでのIGAD和平交渉は、8月4日に再開された。しかし、政府側、反政府側の双方が対話を拒否し、そのまま2ヶ月の猶予期間が過ぎた。8月25日、IGAD特別サミットが開催され、IGADは暫定政府樹立のためにさらに45日の猶予を与えた。また、サミットでは政府側と反政府側の双方が「南スーダン危機の解決に向けた暫定措置に関する諸原則」を決めた議定書に調印したと伝えられた⁶⁵。議定書では、1. 暫定政府に首相ポストを設置すること、2. 首相は次期大統領選に立候補できないことが明記されていた⁶⁶。しかし、その後、この議定書に、キール大統領は調印したが、マチャルは署名しなかったことが判明した。この時、マチャル派は、IGADが南スーダン政府 (SPLM-Juba) 寄りであると非難する声明を出した。

8月は、ユニティ州と上ナイル州で比較的大きな戦闘が断続的に発生した。8月26日には、ベンティウ付近で国連ヘリが撃墜され、搭乗していたロシア兵3人が死亡する事件が起きた⁶⁷。ただし、国連は事故に関する調査結果を発表していないため、この事件がどちら側に責任があるか不明である。

その後、和平交渉は9月22日に再開され、暫定政府における権力分有などについての協議が行われた。

59 さらに、アメリカは、政府軍の司令官 Santino Deng と反政府軍の司令官 James Koang の2人を制裁リストに挙げた。また、EUも Santino Deng と Peter Gadet に対する制裁を発表した。

60 Sudan Tribune, May 9, 2014. “South Sudan peace deal signed under pressure, says Kiir” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50976>) 参照。

61 Sudan Tribune, May 9, 2014. “South Sudanese government, Yau Yau rebels sign peace deal” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article50935>) 参照。その後、南スーダン政府はジョングレイ州内に大ピボール行政地区 (Greater Pibor Administrative Area) を新設し、デイビッド・ヤウヤウを地区長に任命した。

62 Radio Tamazuj, July 4, 2014. “Konga: ‘We will continue to talk about federalism’” (<https://radiotamazuj.org/en/article/konga-%E2%80%98we-will-continue-talk-about-federalism%E2%80%99>) 参照。

63 Radio Tamazuj, July 4, 2014. “Equatorian soldiers ‘disarmed’, troops sent to Terekeka” (<https://radiotamazuj.org/en/article/equatorian-soldiers-%E2%80%98disarmed%E2%80%99-troops-sent-terekeka>) 参照。

64 Sudan Tribune, October 26, 2014. “South Sudan president agrees to adoption of federal system: source” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52850>) 参照。

65 Sudan Tribune, August 25 2014. “IGAD gives South Sudanese rivals 45 days to end conflict” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52166>) 参照。

66 8月25日に署名された議定書 (Protocol on Agreed Principles on Transitional Arrangements Towards Resolution of the Crisis in South Sudan) はインターネット上で閲覧できる。 (https://radiotamazuj.org/sites/default/files/Protocol%20signed%2025%20Aug%2014_0.pdf) 参照。

67 The Guardian, August 26, 2014. “Three killed in UN helicopter crash in South Sudan after rebel warning” (<http://www.theguardian.com/world/2014/aug/26/rebel-commander-claims-shot-down-un-helicopter-south-sudan>) 参照。

10月5日、IGAD 首脳陣が両派の代表と直接話し合う必要があるとして、和平交渉は一旦、中断された⁶⁸。その後、10月12日から、タンザニアのアルーシャで、与党 CCM（タンザニア革命党）の仲介の下、SPLM 内の和解を目的とした党内対話が始まった。なお、タンザニアは IGAD 加盟国ではなく、SPLM の党内対話はアジスアベバでの和平交渉とは別に進められた。会合では、SPLM-Juba、SPLM-IO、SPLM-FPD の3者の代表が顔を合わせ、対談後、紛争の根本原因を議論することを明記した「枠組み合意」が調印された⁶⁹。このアルーシャでの合意は、遅々として進まないアジスアベバでの和平交渉にプラスに働くと思われた。しかし、キール大統領は、10月27日から反乱軍がユニティ州で行った戦闘に抗議して交渉チームをエチオピアから引き揚げ、交渉は再び中断された⁷⁰。なお、この戦闘では、反乱軍が石油地帯を襲撃し、ベンティウ攻略を目指したが、数日間の戦闘の末、政府軍に撃退されている。

和平交渉に進展がみられたのは11月に入ってからである。11月6日、アジスアベバで再び IGAD 特別サミットが開催され、IGAD 首脳陣は、両派に対しこれまで以上に強い態度で臨んだ。サミットでは、キール大統領とマチャル副大統領が1対1の直接対談を行った。そして、7日、両派は、1. 暫定政府の下、政府軍（SPLA-Juba）と反政府軍（SPLA-IO）双方がそれぞれ大統領と首相の指揮下で併存すること、2. 大統領と首相で権限を分有することで合意に至った⁷¹。また、IGAD は暫定政府内の権力分有に関する合意達成のため両派に対し15日の猶予を与えた⁷²。さらに停戦合意が達成されなかった場合、両派の責任者に対し武器禁輸措置などの制裁を課すことを決め、戦闘が継続した場合、IGAD が AU（アフリカ連合）、国連と連携し軍事介入を行うと警告した。9日には停戦協定が再び調印され、両軍が敵対行為の禁止と南スーダン国内から30日以内に外国軍を撤退させることで合意した⁷³。停戦合意は1月、5月に続き3度目の調印となる。しかし、翌日には上ナイル州で戦闘が再開され⁷⁴、停戦合意はわずか一日で破られた。11月下旬には、政府軍が上ナイル州の拠点からジョングレイ州北部を攻撃し、大規模な戦闘が数日間、続いた⁷⁵。

11月下旬、15日の猶予期間は過ぎたが、和平交渉は再開されず、IGAD、AU、国連安保理は何も行動を起こさなかった。12月中旬から両派の和平交渉はアジスアベバで再開されている⁷⁶。

和平交渉において、暫定政府の設置に関する主な争点は、政府内の権力分有である。新設される首相ポストに関して、政府側は、執行権を持たない首相であれば設置を認めるとしているのに対し⁷⁷、反政府側は

68 Sudan Tribune, October 5, 2014. "IGAD says South Sudan peace talks adjourned until 16 October" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52647>) 参照。

69 Sudan Tribune, October 21, 2014. "S. Sudanese rival factions sign framework agreement in Tanzania" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52791>) 参照。

70 Sudan Tribune, November 2, 2014. "President Kiir withdraws negotiating team from peace talks" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52927>) 参照。

71 Sudan Tribune, November 8, 2014. "South Sudan rivals to command separate armies during transitional period" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52983>) 参照。

72 Sudan Tribune, November 9, 2014. "South Sudanese factions given 15 more days to reach an agreement" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52978>) 参照。

73 Sudan Tribune, November 9, 2014. "S. Sudan's warring parties sign renewed ceasefire deal amid calls for foreign troops to withdraw" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52997>) 参照。

74 Sudan Tribune, November 10, 2014. "S. Sudan's rival parties trade accusations over ceasefire violations" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article53004>) 参照。

75 Sudan Tribune, November 28, 2014. "South Sudanese rebels accuse government of renewed hostilities" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article53162>) 参照。

76 Sudan Tribune, December 19, 2014. "South Sudan rivals resume peace talks in Ethiopian capital" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article53384>) 参照。

77 Sudan Tribune, October 27, 2014. "South Sudan president accepts non-executive prime minister for rebels" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52858>) 参照。

副大統領を廃止して首相を設置することを要求している⁷⁸。

5. おわりに：不透明な和平への道筋

南スーダンは内戦勃発から1年が経過した。アジスアベバでの停戦／和平交渉は、キール派(SPLM-Juba)とマチャル派(SPLM-IO)それぞれの政治家たちの権力争いの場となっている。両派は実質的に交渉を始める前に軍事作戦を行う傾向があり、交渉を有利に進めるために戦闘を行っていると考えられる。

また、南スーダン政府軍は、ウガンダ軍やスーダンの反政府ゲリラ、国内の反政府ゲリラと同盟を組んでおり、反乱軍は、ヌエルの民兵組織やスーダンから軍事的支援を受けている。両軍とも、自分たちが他国の正規軍や武装組織から軍事的支援を受けていることを否定しているが、いわば公然の秘密となっている。このように、和平交渉の仲介役であるIGAD加盟国の一部が南スーダン国内の紛争に軍事介入していることが、和平交渉の停滞するひとつの理由でもある。

政府側と反政府側との停戦合意は1月、5月、11月に調印されたが、いずれも数日間で破られており、実効性に欠けている。両派は、相手が先に停戦合意違反を犯したと非難の応酬をしているが、これは両派とも紛争を終わらせる意思がないととられても仕方がない発言である。

紛争の長期化とともに犠牲者と避難民は増加の一途をたどっている。ただ、国連は、犠牲者に関して正確な人数を公表しておらず、数万人と指摘するにとどまっている。一方、ICG(国際危機グループ)は、少なくとも5万人が戦闘により死亡したと見積もっており、国連は、犠牲者のためにも死者数を把握する努力をすべきである、と指摘している⁷⁹。

戦闘地域の都市は、両軍の攻防により、病院、学校、マーケット、小店舗、銀行などの施設が破壊され、ゴーストタウンと化している。また、農村部でも、両軍の兵士とも食料や家畜を掠奪しており、大きな被害が出ている。農作業はまともに行われていないため、各家庭では備蓄食料が底をついていると考えられる。WFP(世界食糧計画)などの国際機関は、現在も大規模な食糧援助を続けているが、南スーダンは2015年に大規模な飢餓に襲われると予測されている⁸⁰。

南スーダンでは、すでに190万人が避難民となっており、そのうち49万人が、難民として、エチオピア、スーダン、ウガンダ、ケニアなどの隣国に退避している⁸¹。国内避難民(IDP)は、主要都市にある国連施設やIDPキャンプなどで避難生活を続けているが、いずれも生活環境はきわめて悪い。5～6月にかけて、ジュバではコレラが流行し、国連PKO施設内でも多くの犠牲者が出た⁸²。また、6～7月にかけて、ベンティウの国連施設に避難民が押し寄せ、施設内の人口が4万人を超えた。劣悪な衛生状態に置かれた施設内では、栄養失調と病気のため、毎日のように死者が出ている⁸³。また、治安の問題も解決されていない。ジュバ、ボー、ベンティウでは、武装市民が国連施設内の避難民を狙って襲撃する事件がたびたび発生している。また、避難民の中にも武器を持ち込んでいる者がおり、施設内で発生する避難民同士の暴行事件

78 Radio Tamazuj, November 11, 2014. "SPLM-IO propose removal of S Sudan VP Igga" (<https://radiotamazuj.org/en/article/splm-io-propose-removal-sudan-vp-igga>) 参照。

79 International Crisis Group "South Sudan: A Civil War By Any Other Name", April 10, 2014. および The Guardian, December 15, 2014. "South Sudan marks first anniversary of civil war" (<http://www.theguardian.com/world/2014/dec/15/south-sudan-first-anniversary-civil-war>) 参照。

80 FEWS NET, November 2014. "Despite harvests, many households in Greater Upper Nile to exhaust food stocks by December" (<http://www.fews.net/east-africa/south-sudan>) 参照。

81 UNOCHA, "South Sudan Crisis Situation Report" No.68 as of 1 January 2015, 2 January 2015. 参照。

82 Sudan Tribune, June 16, 2014. "South Sudan: 1,700 cholera cases in Juba, 37 deaths" (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article51366>) 参照。

83 Radio Tamazuj, June 22, 2014. "OCHA: Bentiu camp "sharply" deteriorates, could hit 60,000 people" (<https://radiotamazuj.org/en/article/ocha-bentiu-camp-%E2%80%9Csharply%E2%80%9D-deteriorates-could-hit-60000-people>) 参照。

では死者も出ている⁸⁴。

一方、隣国に暮らす難民も先の見えない日々を送っている。私は、2014年8～12月、ウガンダのキリヤドゴ難民村で断続的にフィールドワークを行い、難民に対し聞き取り調査を行った。キリヤドゴ難民村は、戦闘発生から現在までに3万人の南スーダン難民を受け入れている。難民の大半はディンカ人であるが、ヌエル人やそれ以外の民族出身者も含まれている。難民たちは、村に到着すると、NGOの職員から、食糧の他、マットやテントシート、山刀などの生活必需品を受け取る。その後、ウガンダ政府から土地を分け与えられるまで、難民受入センターで生活することになる。

キリヤドゴ難民村では、ディンカ人とヌエル人を別々の区画に居住させるような措置はとられていない。村内では、散発的に両者の間で暴行事件が起きているものの、それほど深刻ではない。しかし、ケニアのカクマ難民キャンプでは、2014年11月、ディンカ人とヌエル人の難民同士の暴行で20人が死亡する事件が発生しており、難民間の対立は無視できない問題である⁸⁵。

また、内戦は、南スーダンの経済にも大きなダメージを与えている。主な要因は、国庫の大半を占める石油収入の減少である。ユニティ州の油田は生産停止し、上ナイル州の油田が稼働を続けているものの、生産量は独立直後（2011年）の半分の日産16万バレルに落ち込んでいる⁸⁶。さらに、最近の原油価格の下落は石油収入の減少に追い打ちをかけている⁸⁷。

南スーダンでは、乾季に入ると軍隊の移動が容易になり、戦闘が激化する傾向がある。新年を迎え、難民村でインタビューしたヌエルの若者から久しぶりにメールが来た。彼は戦闘を逃れてジュバからキリヤドゴ難民村に退避していたが、半年、難民村に滞在した後、ジュバに帰っていた。彼のメールには、「ジュバではみんなが希望ではなく死について語っている。自分もキール大統領を倒すことを決めた。あす銃を取りに行ってくる」と、書かれていた。インタビューをした時には、今は大学に行くことが目標です、と話していた青年が、数日後には反政府軍の兵士となっているのかもしれない。そう思うと複雑な気持ちになった。

南スーダンでは、和平への道筋が不透明なまま、今も多くの人々が戦闘に巻き込まれている。今後、政府側（SPLM/A-Juba）、反政府側（SPLM/A-IO）の双方が、どのような政治的決着を図るのか予測ができないが、再び泥沼の内戦を招くような事態にならないことを願うばかりである。

（むらはし いさお／大阪大学大学院人間科学研究科）

84 Sudan Tribune, December 29, 2014. “UNMISS destroys weapons seized from IDPs in Jonglei” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article53504>) 参照。

85 Sudan Tribune, November 1, 2014. “20 killed in renewed clashes in Kenya’s Kakuma refugee camp” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article52913>) 参照。

86 Sudan Tribune, January 2, 2015. “S. Sudan generated \$3.3bn from oil exports: official” (<http://www.sudantribune.com/spip.php?article53528>) 参照。

87 政府は、国家収入の多くを軍備の増強に費やしているため、石油収入の減少は政府軍の戦力低下につながるおそれもある。ただ、2014年、政府はすでに中国から大量の武器弾薬を購入した。